

「家族や身近な人との絆を見つめなおす」

3年 A.K

今回は家族に関する二つの経験から家族との絆について考えてみようと思います。

一つ目の出来事は母の入院です。一昨年の夏に母が急病で入院したことがありました。普段の生活で母がいないのは初めてのことで突然だったのでとても驚きました。母の体調も心配でしたがもう一つ心配になったのは家事です。私は料理も洗濯も手伝ったことがなく出来ませんでした。結局、母が入院している間は母の妹の私の叔母がほとんど毎日手伝いに来てくれました。叔母は夕食を作ったり洗濯をしてくれました。そのお陰で家事の面は乗り越えることができました。その夏は弟の初めての宿泊行事がある時でした。宿泊行事の準備を始める前に母が入院してしまったので私が準備をすることになりました。しかし、弟の宿泊行事のしおりを見て準備をしようとしても何がどこにあるのか分からず、結局母に電話して聞いてしまいました。この準備は用意するものがたくさんあり、全て準備を終えるのに数時間かかってしまいました。私も小学校の時は母に準備を全てやってもらっていたのでこんなに大変なのだと実感しました。母が入院している間は叔母が家事をやってくれていたのではほぼ毎日家に来ていた叔母も大変だったと思います。叔母にはものすごく感謝しています。私は母が帰って来てから、自分から皿洗いやお風呂掃除をするようにしました。この出来事で私は母がいないと何も出来ないのだということを感じました。これから時間が経つと母への感謝の気持ちが薄れていってしまうと思います。そういうことがないようにこのことを時々思い出して感謝の気持ちを忘れないようにしたいです。

二つ目は自分史です。自分史ではたくさんの人に自分の生まれてからの今までの話を聞きました。私は自分の生まれてからの話を聞いたことがなかったので初めて聞く話もありました。特に印象に残っているのは私は小さく生まれたので家族に様々な場面で私は小柄だけどまわりになじめるかと心配をかけていたということです。私は家族とけんかをする度に、家族は私のことをどう思っているのかと考えてしまうことがあります。しかし、自分史をやっていて自分がたくさんの人にもものすごく愛されているということがわかりました。自分史は家族の大切さについて改めて考える良い機会になったと思います。

私は絆とは人に感謝する気持ちがあるから出来るものだと思います。皆、自分一人だと何も出来ません。家族や親せきや友達の助けや支えがあるから生活出来ているのだと思います。その一人一人への感謝の気持ちが持てればその人への有り難みを感じられます。それが絆になるのではないかと思います。生まれて初めて絆を持つのは家族ですが私達はこれからも様々な経験をして絆を築きながら成長していくのだと思います。

私はまだ普段一緒にいる人への感謝の気持ちが持てておらず、一緒にいて当たり前だと思ってしまっているのだと思います。これからは身近な人への感謝の気持ちを忘れずに家族や親せきや友達のことを大切にしていきたいです。